

カトリック 高松教区報

2008年7月13日(第124号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:tkcuria@mxi.netwave.or.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



パウロ年を迎えるにあたって

高松教区長 溝部 脩

教皇ベネディクト十六世は、今年六月二十八日から一年間を「パウロ年」と定めました。パウロの生誕二〇〇〇年を祝つてのことですが、それよりもパウロにちなんで、教会の宣教を考えるというのが教皇様の意図していることです。

まず、パウロの生涯から始まり、彼が残した書き物をよく理解し、その上で宣教を充実させるという意向です。四国の全ての小教区でパウロを学ぶ気運が生まれることを期待しています。

そこで、私たちもその意向にそつて、まずパウロを理解し、彼が書き残したものを学ぶことを始めましょう。実を言うと、これは大変な課題ですし、しっかりとした指導者も必要です。生涯養成委員会もこれにそつて計画をたてることでしょうか。しかし、やはり何よりも自ら聖書に触れて読む習慣を身につけることです。ただし、学ぶことで終われば、教皇様の意向はよく理解しないということになりません。学びつつ、それを生活の中

聖パウロを理解し、 彼が書き残したものを学ぼう

パウロ年
使徒パウロ生誕 2000年

特別聖年
2008 2009

2008年6月28日~2009年6月29日

りと考えないといけません。一年経つて、四国の教会が確かにパウロを理解したという自信に溢れるようになればしめたものです。

パウロは、キリストを生涯求めつづけ、彼に同化しようとした人でした。劇的な出会いによってキリストを深く愛するようになり、その教えを諸国の人々に伝えました。しかも、ユダヤの文化圏でない人々にキリスト教を伝えたのでした。教えをしつかりと理解している人は、その教えを曲げることなく、文化や

主な記事

- 2面 春の叙勲、教区人事
- 4面 訃報
- 2~5面 評議会・委員会報告
- 6面 神学生だより
- 9面 いのちのともしび
- 6~9面 地区だより
- 10面 現勢報告
- 11面 会計報告
- 12面 お知らせコーナー

はばたき

四国の森林率は、高知県の八十四%を筆頭に、四県全体でも七十四%を誇っています。ところが、農業同様、林業も後継者不足に悩まされており、山林の荒廃が問題視されています。伐が不十分ですと、日光が森林内部の空間にまで射し込まないため、林床植生の成長が阻害されます。その結果、降雨時には雨水が土中へ染み込まず直ちに表面を流れ出るため、保水機能が損なわれるばかりでなく、表層の土も雨水とともに流亡し、それが河川に流入すると濁水の原因となります。▼生態系に乱れが現れるばかりか、河川水を灌漑用水としている農業にも支障を来します。さらに、河川の流れの力が海の波力に抗いきれず、河口閉塞を引き起こすことでもあります。これにより鮎などの産卵・遡上が妨げられ、また、山地からの貴重な栄養分が沿岸域にまで運搬されず、漁業にとつても大打撃となります。▼いちじく、ぶどう、オリーブ、樺(かし)、なつめやし、杉など、種々の木が聖書の随所に登場します。その瑞々しき、雄々しさから、生命の象徴として用いられている箇所が少なくありません。木は様々な生命のパロメータと言えましょう。



評議会報告

事務局長 西川康廣

協力宣教司牧を豊かにするために 春の司祭研修会

二〇〇八年度第一回司祭集会「春の司祭研修会」(五月十三日～十四日)を、松山の聖カタリナ・セミナーハウスにおいて一泊二日で開催した。教区で働く三十七名の司祭が参加しともに祈り・学び・意見交換や交わりを通して、交流を深め合うことができた。前回の「司祭集会 in 池田」(二月二十八日)を受けて、ナイスから二十年を振り返りつつ高松教区のこれからの方向性に、次のような課題が見えてきた。

- イ) 日本教会が提示したナイスの「基本方針と優先課題」を再度研修する。
 - ロ) 高松教区はナイス理念に応えるべく、協力宣教司牧態勢を推進する。
 - ハ) 協力宣教司牧態勢の利点と妨げになっていることは何かを探る。
 - ニ) 司祭研修会を通して、教区の宣教司牧のあり方に全司祭が統一見解を持ち、更に認識を深めながら教区の今後の歩みを提示していく。
- 今回の司祭研修会は、これらの事柄を基礎に学び研修することを目的にした。内容的には、司教講話で「福音宣教・教

区の組織化とその霊性」について学び、更に諏訪栄治郎師が、大阪教区発行「新生の明日を求めて」(交わり証する教会)のテキストを基に「ナイスの精神をどうとり入れるか」について基調講話した。その後五つの分団会に分かれ「協力宣教司牧を豊かにするため」と題して、①奨励されるべきこと②妨げになっている要素に関して『KJ法』を用いて作業した翌日の全体会で、各分団会において見えてきたことを発表し合い、更に分ち合いを通して問題点の認識を深めることが出来た。この研修会を一過性のものとして終わらせないためにも発表し合った内容をまとめ、後日全司祭に配布する予定である。

列福式に高松教区から三百名

五月司祭評議会

五月十三日(火) 聖カタリナ・セミナーハウスにて、司祭評議会を開催した。今回は司祭集会「春の司祭研修会」と合わせての開催だったため、十分な時間が取れず、大幅な予定変更となり次回への継続審議が多かった。

・「ベトロ岐部と百八十七殉教者列福式」 in 長崎巡礼は、高松教区から約三百名(内、個人単独参加七十五名)が参加する予定。しかし大半は高齢者の参加であるため、原案では熊本・天草を含めた巡礼を予定していたが、これら

春の叙勲

高松教区の二人が瑞宝双光章を受賞

武田紀さん(83)、トーマス・マヘル神父(76)

高知県香美市にある児童養護施設「博愛園」の園長を長年務め、その後平成元年からは青涛の家(ドメスティックバイオレンスの被害者を保護する施設)を運営。常に、行き場のない弱い人たちを保護する立場にある。



武田紀さん

「今回の受賞は私のためではない。私を支えて下さった方々と、園で正直に真面目に生きてきた子どもたちのためのもの」と言われている。今は立派な大人になっている人たちの中にも、高校生のころの夏休みに博愛園のワークキャンプに参加して、武田先生の愛情あふれる指導を受けたことを思い出す人も多いことと思う。

カトリック中村教会のトーマス・マヘル師が、永年に亘り教誨師として社会奉仕された功績により、春の叙勲で「瑞宝双光章」の栄誉に輝いた。師は、一九七〇年から高知刑務所の教誨師を務め、受刑者の精神的支えとなり、社会復帰に貢献されてきた。刑務所では、聖書の話をし、聖歌を歌い、英会話を指導しながら、受刑者



マヘル神父

と真剣に向き合う日々を送った。その人柄を慕って出所後に師を訪れる人も多い。師は昨年司祭金祝を迎えたが、今も「平和の道具」として働く気持ちは強い。師のこれまでの地道な活動が社会的に認められたことは、教会にとってもまことに喜ばしいことになった。

教区人事

ゴンザレス・イスマエル(七月一日付)
スペイン外国宣教会総長
(スペイン)

デンデリオ・カンバラ(七月一日付)
司教総代理
谷口幸紀
志度地区開拓宣教担当(香川県)

省略し、大村・島原・雲仙巡礼に限定することに決定。今後二次募集の可能性があっても、宿泊・フェリー乗船に定員があるため団体参加は二百六十名までが限度となる。

・『一粒会規約』原案提示があったが、今回の評議会に出た意見を考慮に入れて再度検討することになった。

・二〇〇八年度「教区民の集い」開催日程は次の通りに決定した。

香川地区（九月七日）愛媛地区（十月に予定）徳島地区（九月二十一日）高知地区（九月二十八日）

・「小教区宣教司牧評議会規約」（次回へ継続審議）

小教区規約作成に前進

第一回宣教司牧評議会

二〇〇八年度第一回宣教司牧評議会（五月十六日）の主な議題は次の通り。

1) 小教区宣教司牧評議会規約について

聖カタリナセミナーハウスで開かれた定例司祭評議会（五月十三日）において、教区事務局へ三月末までに提出された全小教区規約の提示があった。今司祭評議会では十分な検討時間が取れなかったという前置きの後、規約作成において統一してほしい幾つかの点が指摘された。一つは名称で「カトリック高松司教区〇〇教会宣教司牧評議会規約」を正式名称とすること。二つ目は名称及び事務所では、

「本会は、カトリック高松司教区〇〇教会宣教司牧評議会と称し、（以下、カトリック〇〇教会評議会と称す）」の表現に統一することを申し合わせた。

発効に関しては、今年四月九日付司教名で暫定承認が発表されたので一年間位を目処に試行期間をとり、この間に規約実行委員会を立ち上げて更に内容の検討を深めながら正式なものに仕上げたい。

2) 「ペトロ岐部と百八十七殉教者列福式」in長崎について

参加には高齢者が多いため、司祭評議会の提案どおり熊本巡礼は取り止めることに同意した。二次募集に関しては拡大列福式準備会（長崎）の結果を待つことになった。今後旅行会社と予算などについて具体的に詰めていくことになる。

3) 二〇〇八年「教区民の集い」について
五月定例司祭評議会報告のとおり

委員会報告

活動報告

「人権を考える委員会」

Sr メリー・ギリス

二〇〇八年度が始まりましたが、発足してから一年半活動してきた委員会として、皆様にお伝えする成果というものはありません。中央協議会の社会司教委員会（難民移住移動者委員会、カリタスジャ

パン、正義と平和協議会、部落問題委員会）の会議や集会に参加すると刺激を受けて帰ってきますが、具体的に動き出すことは難しいと感じているところです。

外国籍信徒司牧

発足の時（二〇〇七年一月）溝部司教

に特に委ねられた任務は「外国籍信徒司牧」でした。四国の各県に大勢の外国籍信徒（愛媛県千二百三十九人、香川県千八百五十九人、高知県六百五十九人、徳島県七百六十五人）が居住されているものと推定されていますが、各小教区が毎年出す統計には外国籍信徒数は五百人以上と報告されています。その方々の他に、四国のどこかに私たちが顔の知らない外国籍信徒は四千人以上滞在しています。何かの方法でその方々と出会う場を作りたいし、日本の中で生活する困難があればお助けしたいという意向があります。少しでもその実態を知るために三月末各小教区に外国籍信徒向けのアンケートを依頼しました。委員会に戻ってきた枚数は四十枚でした。すなわち、この教区にいますと思われる外国籍信徒の〇・〇％の回答でした。しかし、やはり他の教区から聞いている問題点が出てきました。言葉が大きな壁になっていることです。「学校からのお知らせが分からない」、「医療関係での通訳」、「市役所に提出する書類の翻訳」などでした。日本での子育ても子供の信仰教育も困難と感じている方々がかなり多かったです。また一人

の方は「外国人だからというだけではなく、人権全般の問題がある」と指摘しました。このように問題を抱えている外国籍信徒を助けるために皆様からのご提案も期待しています。

二〇〇八年度平和旬間

二〇〇八年の平和旬間の準備に取り組んでいます。今年は八月六日（水）～十五日（金）に当たります。「祈りのリレー」を是非今年も実行したいと考えています。この祈りこそは教区民全員が参加できるものですから、平和旬間の間、教区全体が平和のために祈ることを通して一つになれるからです。昨年「祈りのリレー」の申込書に書いてくださった祈りの意向を使ってミサの共同祈願を作成しました。今年も是非使いたいと思っています。平和を願うためのミサは八月十日（日）になります。具体的な計画ができ次第皆様にお知らせします。

正義と平和全国大会 高松教区開催

二〇〇九年の秋（十月十日～十二日）高松教区が「正義と平和全国大会」を担当することになりました。この大会準備と実行に当たっては、特に社会問題に関心のある方々の力添えを委員会全員がお願いしたい所存でございます。ご協力をよろしく願います。



第六回 「宗教者平和懇話会」報告

委員長 西川康廣

四月三十日(水)第六回宗教者平和懇話会が立正佼成会(丸亀)で開かれ、十一名が参加した。(内訳は諸宗教団体七人・カトリック四人)

二〇〇六年第八回WCRP「世界宗教者平和会議in京都」を受けて、「今宗教者にできること」を旨とし、同年八月三十日に「ポストコングレスin四国」を高松で開催した。その後立正佼成会が発起人となり、香川県に「宗教者平和懇話会」が発足。同年十二月に臨済宗法泉寺において第一回会合を開催し、今後の計画要綱を次のように申し合わせた。

イ) 「京都宣言」のキーワード、「平和」「正義」「いのち」について、それぞれの宗教はどのように理解しまた表現しているか。対話を積み重ねながら、諸宗教が共有できる言葉を見出すまで継続努力する。

ロ) 共通理解の上に立ち、会独自のメッセージを作成し、最終的には県教育委員会や学校関係に平和メッセージを発信する。

第一議案は「平和メッセージ」の発信について。①「誰から」②「誰に」③「どのようなメッセージ」について審議し、次の内容事項を決定した。①に関しては、

この会の名称を「宗教者平和懇話会」とし、代表幹事三名を選出した。

②に関しては、「ポストコングレスin四国」に参加した諸宗教団体へ先ず発信し、参加団体から教団・教派へ波及していくよう促す。更に「宗教者平和懇話会」が、香川県のみにとどまらず四国の他県においても立ち上げられていくように努める。

③に関しては、

イ) 作成した平和メッセージを発信するだけでは十分に理解されにくいいため、「宗教者平和懇話会」の今までの経緯と過程内容を添える。

ロ) メッセージは平易で短くまとめたものが相応しく、そのためにも今まで話し合ってきた全ての文章を洗い直す作業が必要。作業担当者を各団体から選出し、合宿を開いて一気に仕上げる。

第二議案は、「宗教者平和懇話会」主催ローマ・バチカン巡礼について。旅程案を提示して次のように決定した。

・日程Ⅱ二〇〇九年二月七日(土)〜十四日(土)の八日間

・団長Ⅱ溝部 脩(カトリック司教)

・参加人数Ⅱ「宗教者平和懇話会」(香川)

メンバー含む、総勢四十名程度

・対象Ⅱ「平和メッセージ」を四国の他県にも発信し、他県から三〜五名程度ずつ参加募集を呼び掛ける。

訃報 永遠の安息をお祈りいたします。

カトリック赤岡教会のシモンズ・レオナルド神父
六月五日午前七時十分、高知市近森病院にて帰天、享年八十二歳



シモンズ神父様のお通夜(六月六日)、お葬式(六月七日)に来て頂きましたこと、また、弔電、お祈りを下さった方々に心から感謝を申し上げます。シモンズ神父様は色々な病気を抱えていましたが、腸への血管づまりが原因で、思ったより早く神のもとに行かれました。この大切な時に私たちを支えて下さって、本当に有り難うございました。(ジユード・ピリスツレ オブレート会管区長代理)

聖ドミニコ宣教修道女会坂出修道院のソール・イメルダ吉田米子

五月二十七日午前一時二十二分、坂出聖マルチン病院にて帰天、享年九十一歳

子ども&中高生の集いに参加して

鳴門教会 中学一年 西山里穂

一日目、月見ヶ丘海浜公園に集合しました。ブラザー八木が恩送りの話をしてくれました。恩送りとは友達から良い事をしてもらい、それをその友達に返すのではなくちがう人にする事。たくさんちがう人に

良い事をするとうどんどん良い事がひろまっています。それで私は友達やみんなに恩送りをしてあげようと思いました。

二日目、一つの話を書き分けて紙しばい



作りました。大きな紙に絵を描き、私は色ぬりをしました。その時に一緒にいる人と友達になりました。紙しばいの話はマルティンという靴売りのおじいさんが奥さんにも子どもにも先立たれた様子をうらんでいました。でも聖書を読むようになってまわりの人にやさしくできるようになった。実はそのまわりの人は神様だったという話でした。来年もみんなと会いたいです。

ゲームを通して宣教を体験

子ども&中高生の集いin徳島

徳島教会 山口文子

四月二十六日(土)二十七日(日)の両日、『家庭と召命の日』から数えて、第二十回目という記念すべき『子ども&中高生の集い』が徳島県で開催された。延べで百三十名の参加があった。

初日、私たちは月見ヶ丘海浜公園に集合し、夕食のバーベキューまでを海と空港を望むすばらしく広い公園で過ごした。テーマ曲フレンドを元氣よく歌って幕を開けた。「宣教しよう」―人となかよくする―というテーマのもと、なぜか阪神タイガースのはつぴ姿で登場した佐藤神父様は、イエス・クラブで皆の心を盛り上げてくださった。ブラザー八木からは、ペイフォワード(恩送り)のゲームが紹介された。ブラザーがある一人のこどもに伝えたメッセージが、一人から三人へ、また三人へと、どんどん広がっていくゲームだ。愛のメッセージや愛の行いをこうして世界中に広げていくこと。これが宣教だ。二日間を通して行われたゲームによって、身をもって宣教を体験することができた。

夕食後は、鳴門教会に場所を移し、パワーポイントでペトロについて学んだ。二日目は、トルストイの童話『靴屋のマルチン』の紙芝居を作った。各班で創意工夫し、ミサの中で発表した。どの班もユニークで素晴らしい、ストーリーもさることながら大変感動した。

今回の集いで素晴らしかった点は、青年たちがリーダーを務めてくれたこと。そして、遊び、スポーツ、勉強、歌、食事、ミサ、全てを通して「君は愛されるために生まれた」：「一人一人は、大切な神の子」：「皆仲良くしよう!」：「この愛を伝えよう」という宣教のテーマを体感できたことだ。こどもたちの溢れる笑顔を見ている

と、また来年、さらにパワーアップした集いが、香川県で開催されることが、今から待ち遠しい。

最後に会場をお借りした鳴門教会、聖母幼稚園の乾神父様はじめ皆様方には、食事の準備など、裏方として色々助けて頂きありがとうございました。

この時代に生きて

中島町教会 森本みずす

証人になろうをテーマに殉教者について考える青年と高校生の集いが、六月七日(土)〜八日(日)松山市北条のセミナーハウスで開催されました。

私は正直、殉教という言葉はあまり好きではありませんでした。なんだか暗いイメージがあるからです。今でさえ、日本ではキリスト教が普及しているとは言えません。学校の授業にも出てくる程の、キリシタン弾圧という時代もありました。



集いの中で、岡山教区から高松教区への「証し灯」のリレーが行われた。向う日本の青年達は、11月の列福式に向けて同じ思いでミサを捧げ、バインダーに寄せ書きをして、このローソク「証し灯」を各教区に回している。

しかし、殉教者について考えるということとはどういうことなのでしょう。キリストの教えを一心に守り、その為に命を落とした多くの大人や年端もいかぬ子どもたちを思うと胸が痛むし、そこまでできるなんて凄いな…とただ素直にそう感じるばかりです。でもその反面、そういう時代だったから…と思う気持ちもあるのです。

よく、戦前、戦後を生き抜いてこられた方が『今の私たちは贅沢だ。戦時中は食べるものもなく、生活も貧しかったけど、どんなに苦しくてもがんばって生きてきたものだ』と言われるのをテレビで見ます。しかし、それは戦時中という時代があったからだと思います。今の私は毎日必死で生きてるとは言えないけれど、もし、戦時中に生まれていたら、今よりもつとがむしやらに生きていたかもしれないと思います。

今は教を守り通して、殉教するということのような時代ではありません。今の世の中で殉教するということを私は想像できません。そんな思いで話を聞いている私に佐藤神父さまは、今の時代で殉教することの意味を教えてくださいました。殉教とは『(教えに殉じて)死ぬこと』に重点をおくのではなく、むしろ『生きること』に重点をおくのだと。

生き続けることは難しいと神父さまは言われました。それは、今の時代を生きる私たちには心底感じるのだと思います。そして、生きるということとはただ生命を繋いでいくということではないということです。

神様の教えを布教するというよりは、教えを生きるということ。そうは言っても、私を含め、それを素直に行っている人はそんなに多いとは思えません。人間だから、弱い自分に負けてしまう時多々あります。神父さまの言う今の時代に沿った殉教の道は、難しいのです。

そこで、さらに神父さまはこう付け加えられました。

『与えられた環境で、自分の命を使っていることが与えられた使命を知ることだ』と。

私はよくこの『使命』という言葉がミサや勉強会、直接、ブラザーや神父さまに繰り返し聞かされてきました。しかし、どこかピンとこないのです。それどころか、日常の煩わしさやしんどい人間関係の渦中にいると『使命』なんてものが本当にあるのか疑わしく感じていました。でも、この神父さまの話を聞いてようやく納得できたように思います。

何でも簡単に得られるものは、簡単に壊れていくものです。でも、本当に自分の命を使つて得たものは、それが必ず実となつて自分を創っていくのだと思います。

こうして私は昔の殉教者を想いながら、今の時代にあつた『殉教』を感じる事ができたのです。しかし、これからそれを生かしていくのは自分次第。こう決めたのだから、こう生きていこう!と簡単に続けられるほど人間は強くないと思います。

ただ、日々弱い自分と向き合っていくことを忘れてはいけないと思うのです。

地区だより



家庭は召命の苗床 日力連第三十四回仙台大会に出席して

中島町教会 横田万里

高松教区は、女性連合を休会しています。でも賛助会員としてではなく、教区の一員として参加させていただきました。平賀司教様から、溝部司教様はじめ皆様によく申しつかってまいりました。

総会にも高松教区の報告と委任状が出ていますと聞きました。阪神カトリック女性の会の会長上田三保子さんと同室で大変親切にいただきました。

カトリック元寺小路教会(仙台教区司教座聖堂)は、立派な建物でした。広瀬川殉教地巡礼の後、再度この建物で、平賀司教様の基調講演テーマ「家庭は召命の苗床」殉教者の信仰の証に生きるを拝聴し、しばらく黙想して各自奉納文を記入して代表が奉納しました。昼食後二十三のグループに分かれて家庭のことなど遠慮なく話し合



神学生だより (3)

東京カトリック神学院
哲学科2年 松田栄作

東京の生活にも慣れ、リズムが出てきた今日この頃です。1年目はゆったりとした時間の流れの中で自分を見つめることができましたが、これからは足早に流れ行く時間の中で、要領よくポイントを絞って取り組んで行かなければなりません。中身の濃い授業や霊的指導、様々な行事、当番などを限られた時間の中でこなしていかなければならない状況です。

行事といえば、GWに調布のサレジオ神学院で交流スポーツ大会がありました。サッカーとソフトボールを行いました。よく組織化されたサレジオ会の若者エリート集団と、東京大神の奔放なオヤジ集団によるサッカーの対戦カードには、見事にその体質が反映されていました。20分1本勝負で、結果は5-0と大敗を喫しましたが、精一杯奮闘したためか、何故かすがすがしく、また応援とヤジでは圧倒していたと思います。この行事には近隣の大半の神学生が集まったため、上智で勉強しておられるルイス神父様の姿も見られました。他にはコンベンツァル・フランシスコ会やイエズス会、レデンプトール会の神学生が来ていました。サレジオ会が圧倒的に強かったですが、東京大神も奮闘し2位に食い込みました。また、この日には50人位の神学生が集まっていたので、迫力ある元気一杯のミサが捧げられ、日本の教会の将来は明るいのではないかという希望も感じることができました。司祭の高齢化や教会の世俗化等危機的な状況を迎つつあるとささやかれる日本の教会で、共に手を携える仲間と出会えたことは大きな恵みでした。



いました。ほのぼのとした。派遣ミサの後、顧問の宮原良治福岡教区司教様の感謝のことば、祝福がなされ、ペナントは大分教区に引継がれ解散いたしました。

仙台教区は広いですが、仙塩地区連合会の皆様方のお働きぶり、協力の良さをまざまざとみせていただき、感謝の念でいっぱいになりました。お世話になりました。ありがとうございます。

ありがとうございました。

ひびの世界 ひびのちかい

坂出教会 小野雅之

昨年の夏、イギリスで第二十一回世界スカウトジャンボリー大会が開催されたことは、まだ皆様のご記憶にあると思います。今回幸いにも、この大会に参加された坂

出第四団スカウトである小松真子さんに忙しい中、お話を聞きすることができました。というのも小松さんは学校の授業に学習塾、習い事と過密な毎日を送りながら、スカウトの活動もされているそうで、その合間を縫ってこういう機会を作っていただきました。



浴衣を着たメキシコのスカウト

この大会期間の約二週間は、今迄培ってきた知識と経験とで野営、自炊しながら、いろんなフェスティバルに参加して過ごしたそうです。参加された当初は多少不安もあったそうですが、他国のスカウトとはすぐに打解け、まるで家族や兄弟のような繋がりを感したそうです。特に写真をお借り

したメキシコのスカウトとは姉妹のように仲良くなり、お互いの民族衣装を交換したそうです。

「ともに愛し合い、ともに分かちあう」、小松さんのお話を伺っているうちに、そんな言葉が脳裏に浮かびました。また、彼女が大会での貴重な体験をもっと旨く表現出来ていないもどかしさを感じ、そして言葉に出来ないくらい素晴らしい感動を受けたことを知ることが出来ました。

これからは小松さんはボーイスカウトの活動を通じて、貴重な体験を沢山されるに違いありません。

韓日の協力で行われた

ペドロさんの助祭叙階式

道後教会 竹葉純子

去る五月三日、カトリック松山教会にて、溝部司教様の司式により、ドミニコ会修道士のペドロ・ユ・チョンピルさんの助祭叙階式が行われました。叙階式には、ペドロさんの祖国韓国から、ご家族二名、ドミニコ会司祭、ドミニコ信徒会員五名の皆さんが、また香港から、ドミニコ会ロザリオ管区のソリス管区長さん方が出席されました。また国内からは、高松教区司祭、ドミニコ

会の司祭・シスター・信徒会員、地元愛媛の信徒たちが多数参加し、二百人を超える人々がペドロさんのために祈りました。



韓国入女性と日本人女性による奉納

式の中で、第一朗読は日本語で、第二朗読は韓国語で朗読されました。また、奉納はチマチョゴリ姿の韓国人の方と着物姿の日本人の方の二人によって行われました。叙階式は、すべてが厳かで感動的でした。このように韓日の協力で行われた叙階式は、ペドロさんが二つの国をつなぐ架け橋になっていらつしやることを象徴しているように思いました。これからは、神様からの豊かな恵みが新助祭ペドロさんのうえに注がれますようにお祈りしております。

道後教会 丸尾 修

さる三月、「聖なる過越しの三日間の典礼に関すること」がらについて「溝部司教様の書簡が出されました。この中で司教様は「聖週間一度行われた聖なる過越しの三日間の典礼、特に『主の夕べのミサ』ならびに『復活徹夜祭』を再度繰り返して行うことがないように」と通達されました。

この書簡について教区民のみなさんはどう受け止めたでしょう。私の教会ではこのようなことが行われる心配はないので「よそごと」と安易に考えられた人もいたでしょう。しかしこの書簡は司教様が並々ならぬ決意を持って出されたものであり、出すために払われた数々のご苦労を教区民は知るべきだと思います。

この書簡で強調されているのは、教会生活にとつて最大事である聖週間を教区民が心をひとつにして同じ典礼で行いましょうということだと思います。これだけはつきりと「典礼での一致」を求められたことはなかったのではないのでしょうか。しかしこのような当たり前に守るべきことを司教様が特別な文書を出して訴えねばならない高松教区の

現状を教区民みんなで考えねばならないことだと思います。この書簡を出すために司教様は多忙な聖務の中で何回も

バチカンの関係省庁を訪れ、教皇様にもお会いになり、「三日間の典礼儀式を繰り返すことはできない」とはつきり回答をいただいています。溝部司教様でなければできなかったことではないでしょうか。

二〇〇四年七月十九日、溝部司教様は高松教区に着任さ

司教様とともに歩もう

『教区の一致と再生』めぐり

れました。以来四年、「教区の一致と再生」を実現させる

という重たい十字架を担われて、血のにじむような努力と実行力で一歩を踏み出して働いてこられました。教区の組織作り、会計システムの整備をはじめ教区民の集いの開催、徳島のシンボ開催、若者と聖書講座、その他数々の活動の中で教区は新しい動きを見せ始めています。特に四国四県で協力宣教司牧体制が実施され、小教区の垣根を取りはず

す。し神の民としての共同の目的に向かって活動し始めています。

そして「教区の一致」をめざすうえで大きな課題である教区立神学院の問題。カトリック新聞で取り上げられたとき、「神学校の問題が解決しなかり教区の一一致はできない」という切実な信徒の声が掲載されています。この問題についても溝部司教様は九回もバチカンを訪れ関係省と粘り強く話し合いを持っています。最近では司教協議会会長の岡田大司教様（東京教区）や池永大司教様（大阪教区）からも溝部司教様を助けて動き始められ、四月には一緒に教皇様に謁見されこの問題を説明されました。司教様方のこのような数々の教区民の一致への努力が実りますように。それは多くの教区民の心からの願いでもあるからです。

『教区の一致と再生』へ熱い思いをもって歩まれる溝部司教様の十字架を私たち教区民ともに担わねばならないと思います。司教様を孤立させてはいけません。司教様を支えともに歩みましょう。これまでの司教様のご苦労と流されたであろう皆さんの汗と涙に感謝しながら、これからは司教様とともに歩みましょう。

生涯養成講座
「生きたよー殉教」を聴講して

教区事務所 土屋和彦神父

自分から大阪や東京などに出向けばこのような機会もあるのでしようが、居ながらにして素晴らしい講座に、二度も続けて参加できました。有難いことです。

一つ目は、岡本哲男神父さまの講座『四国の教会の歩み』(二〇〇八・四・十九)。神父さまが「第一部 景教について」と題して示されたのは、「景教、渡来豪族、弘法大師ら仏教」を介して伝わったキリスト教。十六世紀ではなく四世紀に我が国に入ったと言えるのではないかと、という大きな枠組み。聴けば岡本神父さまは讃岐のお生まれとのこと。信仰と同時に大師、大師を育んだ故郷への深い愛も伝わってお話でした。次いで「第二部 キリシタン時代の四国における宣教」。四国宣教の始まりが、九州・中国・近畿・畿内との交通路にあり、まさに瀬戸内海や豊後水道を行き来する、



岡本神父の講座にて

宣教師の旅路の中で芽生えたこと。四国で最初の天主堂建設に先立ち、文字通り「津々浦々」で最初の洗礼の恵みが花開いたこと。また殉教者たちのいさおし。講座を聴講するまでは、どうして溝部司教さまが道後教会で「若者と聖書の集い」を始められたのか、また何故あんなに素晴らしいステンド・グラスで装われ、大切にされているのか、不思議に思っていました。キリシタン時代に殉教者を出した最初の教会の一つであると教わり、納得しました。さらに今、小豆島土庄教会のミサに向かう船も同じ海を渡ることを思い、教区内に大切な巡礼地が多い恵みにも気付かされました。

続いて、「第三部 ドミニコ会ロザリオ管区による四国知牧教区の創設」と三部構成にて。独身を守る司祭・修道者への「非国民」という特高や憲兵の難詰と機知にあふれる返事の話、太平洋戦争末期の話にも驚きました。対岸の広島に落とされた原子力爆弾への報復として、松山のドミニコ会士の兄弟たちに捕縛と処刑の噂が立ったときのこと。神父さま方の反応は？「恐れはない。むしろ大きな喜びと平和がある。ついにキリストの為に死ぬことができる。特別な人に与えられる殉教の恵みに浴する。大きな誓いの知らせとして静かに喜んで待った」と！この証言を伺い、四国の教会で戦災にあった数多くの聖堂、信者達、神学校や施設があったにも関わらず、力強く再建が進んでいったのは、この方々の信仰の模範あればこそ、と実感します。

マリア様をたたえます
道後教会で聖母月行事



聖母像にバラを捧げる信徒たち

聖母月の五月十七日夜、道後教会で『聖母に捧げる式とミサ』が行われた。集まった三十人近い信徒たちは聖母像の前で聖母をたたえて祈り、歌を歌い、ミサを捧げて平和を願い、苦しむ人々への救いのための取り次ぎを祈った。これは聖母月の行事として初めて同教会が行ったもの。新任の担当司祭サンティアゴ神父が司式した。式の中ではロザリオを唱え、ミサの中で詩を捧げ、ロウソクの灯の奉納のあと信徒一人ひとりが御像にバラを捧げた。

次に、松永洋司神父さまの講座『福者殉教者パウロ田中・マリア田中夫妻』(二〇〇八・五・十七)に与ることができました。松永神父さまと「田中夫妻との出会い」は、新本町江ノ口教会にて、ドミニコ会士ヨセフ神父さまのお陰で伺いました。時を越えた「人格的出会い」の出来事を暗示されていると推察します。また江ノ口教会の守護聖人というきっかけ、地元四国ご出身の田中司教さまのお名前との符合、またドミニコ会司祭ヨセフ・ヤシント師を匿った宿主としての、夫妻の信仰生活と殉教の地が長崎であることのお話しでした。

岡本神父さま同様、松永神父さまの切り口も斬新で、該博な知識と歴史への造詣と愛を感じました。田中夫妻を語るに先立ち、ドン・パウロ一条兼定の生涯が紹介されま

した。過去の罪を悔い改め、洗礼を受け大友宗麟の後ろ盾を得て長宗我部元親に戦を挑み敗れるドン・パウロ一条兼定。悩んで「二度の敗北は自らの罪の故か？」と問う。カブラル師は「主は義人を試みる」と答えました。またサン・フェリペ号事件で殉教に向かうことになるフェリペ・デ・ヘススとファン・ポブレの生涯が一瞬交わり、道が分かれる御摂理の不思議をご指摘でした。(ルカ十七・三十四〜三十五)一人一人備えられる道が異なると、しかも明らかに示される不思議。「サン・フェリペ号が失われたのは、フライ・フェリペが救われるためであった」。ここでの「救われる」は殉教そのものですから、船名からも御旨を識別する信仰の感性和、殉教者を敬慕する心が明らかです。二十四人が出発し二十

六人が殉教する人智を超えた証しの力の話。二十六聖人の時から、田中夫妻の時、元和の大殉教二百五福者の時へと講義が続きました。今私達が直面する様々な困難へ向かう為にも確かな教えを頂きました。さて、田中夫妻は、ヌメロの組、ロザリオの組の組員として活動していたそうです。そして聖母の被昇天を祝うための集いが密告された。師はこの「夫婦の活動」にも光を当てておられます。土佐から長崎に出て、四十五歳位であろうパウロ田中はロザリオの組の組親として、また、ヤシント師の宿主として活動しています。異郷での命懸けの信仰の集いを守る働きに、マリア田中の妻としての完全な支えと助けがあつてこそ可能であつたのでしょうか。

松永師が結びに選ばれたみことばは、世の知恵に頼らずに「十字架の愚かさを生きる」(イコリ一・十八と三十一)でした。結びのエピソードもご紹介いたします。当時伝教寺の建立を手伝つても良いかどうかを巡つて、信者の組内に分裂がもたらされた時のこと。互いに傷つけ合う悲しみの中で、ヤシント師からもたらされたのは「対立を止めよ。組の長所をあらわせ。愛と慈悲を生きよ。」との言葉だつたそうです。彼らの信仰の子孫が、パリ外国宣教会、ブジヤン師と再会するに至る年月日々、組や帯の信者の信仰に深い敬意を覚えつつ。了

素晴らしい講座を企画準備・運営されたスタッフの皆様と岡本神父さま、松永神父さまに心からお礼申し上げます。

医療のともしび (10) いのちの始まり

生命尊重ニュースによると、1年間に失われる胎児の生命は届出数だけでも27万。そのうち十代の中絶件数は約2万7000件。実数はその2倍とも言われ、戦後六十余年に葬り去られた生命は7300万に上るといわれます。2007年5月から熊本の慈恵病院に『赤ちゃんポスト』が開設されました。「育てられない」という問題を抱えている母親が辛い思いをして子供を手放している。預かった赤ちゃんが将来、幸せに力強く社会の一員として生活できるように、しっかり考え、その方向に向かって働きかけていきたいと思っていますと理事長の蓮田太二氏は言っています。

生命の始まりについて、糸永真一司教のカトリック時報を読みました。抜粋します。

人間の肉体は物質界の一部であるが、人間を人間たらしめる靈魂は直接神の創造に成るものであり、肉体と靈魂を合わせた全体としての人間は、知恵と自由を備えた神の似姿として神の命に参与し、また、造られた世界に対する究極の支配権を持つ神の意向に従って地球を治める使命と責任を委託されている。従って、人間は生物進化の法則の及ばない超越的尊厳を持つものである。この尊厳ゆえに、生物医学は人間の生命に奉仕すべき立場にあり、人間の恣意に基づいてこれを支配することは断じて許されない。

1) 受精の瞬間から人間のいのちが始まる

『卵子が受精した瞬間から父親や母親のそれとは異なる一つの新しい生命がはじまる。

それは、自分自身の成長を遂げるもう一人の生命である。受精のときにすでに人間となるのでなければ、その後において人間となる機会はありません。この不変かつ明白な事実は現代遺伝学の成果によって裏づけられている。すなわち、現代遺伝医学によれば受精の瞬間から、受精卵の中にはその生命が将来何になるのかというプログラムが組み込まれている事が証明された。それはつまり、受精卵は一人の人間、しかも特定の特徴をすでに備えた一人の個人となるということの意味する。受精のときから人間の生命は冒険を始めるが、それが持つさまざまな偉大な能力は、発揮されるまでに時間がかかるのである。』(教皇庁教理省「生命のはじまりに関する教書」第一章の1)

2) 靈魂はいつ宿るか

『いつ靈魂が宿るかということは経験による実験的データからだけでは示すことはできないが、にもかかわらず、受精卵についての科学的なこれらの結論は示唆を与えているといえよう。それを踏まえたうえで理性に基づいて考えるならば、われわれは、人間の生命が初めに現れた瞬間から、そこに一つの人格の存在を見出すことができる。ヒトの固体(human individual)であるものが人格的存在(human person)でないということがありえるだろうか。人格(パーソン)の定義について教会は哲学的な発言をしているわけではない。ただ、倫理の立場から人工中絶をたえず断罪するのである』(同上)

3) 受精卵の不加侵の人権

『したがって人間の生命は、その存在の最初の瞬間から、すなわち接合子が形成された瞬間から、肉体と精神とからなる全体性を備えた一人の人間として、倫理的に無条件の尊重を要求する。人間は受精の瞬間から人間として尊重され、扱われるべきである。そして、その同じ瞬間から人間としての権利、とりわけ無害な人間だれにでも備わっている不可侵の権利が認められなければいけない』(同上)

『受精の瞬間から自然死に至るまで、すべての人間の生命の尊厳と不可侵の権利は厳密に擁護されなければならない』というカトリックの生命倫理は、個人や家庭ばかりでなく、人類全体の平和と幸福の原点である。この生命倫理があいまいにされ、個人や国家の都合(恣意)によって曲げられ、無視されるとき、この世は不幸と「死の文化」の間に覆われる。わたしたちはあまりにも多くの悲しい現実を見てきた。生命倫理の確立は緊急の課題である。

医療法人愛光会

長井内科・胃腸科医院 長井新一郎

2007年度カトリック高松司教区現勢調査報告 2007年12月31日現在

1. 信徒数概況

	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	合計
面積	1,876.16 Km ²	5,676.76 Km ²	7,104.87 Km ²	4,145.46 Km ²	18,803.25 Km ²
人口	1,023,074 人	1,479,775 人	811,678 人	792,419 人	4,106,946 人
前年度信徒数	1,542 人	1,897 人	790 人	708 人	4,937 人
信徒	1,544 人	1,866 人	784 人	718 人	4,912 人
司教・司祭	28 人	15 人	6 人	4 人	53 人
助祭	人	人	人	人	人
修道士	人	人	1 人	人	1 人
修道女生	45 人	31 人	9 人	人	85 人
神学生	19 人	人	人	人	19 人
総数	1,636 人	1,912 人	800 人	722 人	5,070 人
前年度総数	1,638 人	1,943 人	807 人	711 人	5,099 人

2. 人員構成

司教	2 人
教区司祭	27 人
宣道ミニコ会	10 人
オブレート会	9 人
スペイン外国宣教会	5 人
宣道・修道司祭小計	24 人
助祭	人
神学生	19 人
修道士	1 人
聖ドミニコ宣道修道女会	56 人
松山修道院	16 人
北条修道院	11 人
新居浜修道院	4 人
坂出修道院	20 人
小豆島修道院	5 人
聖心の布教姉妹会	9 人
聖母被昇天修道会	5 人
神の母マリア修道院	13 人
ノートルダム修道会	2 人
修道女小計	85 人

3. 諸施設

(1) 教会	26 所
小教区	26 所
巡回教会	2 所
布教所	1 所
(2) 修道院	10 所
男子修道院	1 所
女子修道院	9 所
(3) 教育施設	19 人
教区立国際宣教神学院	19 人
聖カタリナ女子大学	848 人
聖カタリナ女子短期大学	328 人
愛光学園高等学校	693 人
聖カタリナ女子高等学校	1,297 人
愛光学園中学校	579 人
幼稚園 (23 園)	2,770 人
(4) 社会福祉施設	196 床
聖マルチン病院	196 床
聖マルチンの園	50 人
聖マルチンの家	55 人
マリアの園	50 人
聖園天使園	81 人
聖園ベビーホーム	46 人
保育所 (2 園)	19,175 人

4. 教区内組織

- ・教区顧問会
- ・教区宣道司牧評議会
- ・司祭評議会
- ・経済問題評議会
- ・修道女連盟
- ・カトリック幼稚園連盟
- ・典礼委員会
- ・生涯養成分員会
- ・青少年委員会
- ・広報委員会
- ・地区 " " (4 県)
- ・小教区 " " (26)
- ・レジオ・マリエ
- ・ヴィンセンシオ会
- ・カトリック看護協会
- ・カトリック医師会
- ・カトリック・ホーイスカウト
- ・指導者協議会
- ・教会学校教師会
- ・カトリック高校生会
- ・クリスチャン・ライフ・コミュニティー
- ・マリッジ・エンカウンター
- ・人権を考える委員会
- ・カトリック女性連合会
- ・共助組合
- ・カナの会

5. 信徒数動向

教会名	信徒数				洗礼		転出入		死亡	堅信	初聖体	求道者	教会学校		ミサ参加			結婚			
	男性	女性	総数	不明	幼	成	入	出					信	未	主日	復活	降誕	①	②	③	④
桜町	318	512	830	56	8	4	12	7	4	0	10	5	47	0	200	300	400	0	0	6	8
番町	66	110	176	0	0	2	1	1	4	0	0	2	9	0	50	80	170	0	0	0	0
小豆島	29	40	69	27	0	14	0	0	5	0	2	0	0	0	15	20	40	0	0	0	0
三本松	16	21	37	2	1	0	0	1	0	0	2	4	4	0	25	30	50	0	0	0	0
坂出	60	130	190	0	1	4	0	4	10	2	3	10	0	0	50	50	200	0	0	0	0
丸亀	33	95	128	5	6	2	5	3	1	2	6	4	20	0	55	30	35	0	0	0	0
観音寺	7	26	33	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	15	30	50	0	0	0	0
善通寺	23	58	81	0	1	2	2	1	1	0	3	4	0	10	15	30	100	0	0	0	64
香川県計	552	992	1,544	90	17	28	20	17	26	4	26	31	80	10	425	570	1,045	0	0	6	72
松山	347	668	1,015	8	10	13	11	27	15	10	4	20	25	-1	320	425	530	0	0	2	3
道後	52	106	158	4	1	0	1	8	2	2	1	0	0	0	50	90	275	0	0	0	2
今治	78	92	170	5	0	1	2	3	4	0	1	2	3	0	50	200	300	0	0	0	0
新居浜	103	143	246	3	2	2	5	0	3	4	6	3	18	5	75	100	130	0	0	0	1
西条	19	37	56	6	1	0	2	1	1	1	1	5	5	8	17	88	60	0	0	0	0
郡中	19	44	63	0	1	1	2	0	1	0	0	3	4	15	40	50	100	0	0	1	0
八幡浜	17	55	72	1	0	0	2	0	1	0	1	0	1	0	20	40	60	0	0	0	0
宇和島	21	49	70	0	2	0	1	0	3	0	1	2	0	0	30	110	140	0	0	0	2
伊予三島	11	5	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	18	20	0	0	0	0
愛媛県計	667	1,199	1,866	27	17	17	26	39	30	17	15	35	56	27	606	1,121	1,615	0	0	3	8
中島町	150	270	420	32	3	1	3	11	9	3	2	7	6	0	130	300	280	0	0	2	13
江の口	76	124	200	9	1	0	3	1	1	0	0	66	0	22	65	100	145	0	0	0	0
安芸	10	29	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	12	17	0	0	0	0
赤岡	11	24	35	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	15	40	78	0	0	0	0
中村	11	79	90	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	10	70	90	0	0	0	0
高知県計	258	526	784	41	5	1	9	14	12	3	2	73	6	22	229	522	610	0	0	2	13
徳島	137	252	389	7	0	0	7	0	0	0	6	10	46	0	73	237	246	0	0	1	2
鳴門	86	109	195	0	0	1	4	1	1	0	0	3	0	0	40	70	170	0	0	0	0
阿南	35	56	91	0	1	0	1	0	2	0	0	3	0	0	15	25	30	0	0	0	0
池田	8	35	43	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	15	20	0	0	0	0
徳島県計	266	452	718	7	4	1	12	1	3	0	6	16	46	0	136	347	466	0	0	1	2
教区総計	1,743	3,169	4,912	165	43	47	67	71	71	24	49	155	188	59	1,396	2,560	3,736	0	0	12	95
前年度	1,763	3,188	4,951	391	40	59	56	79	54	57	49	98	187	76	1,348	2,740	3,828	2	4	18	137

【結婚】 ①=カトリック同士 ②=カトリックと他のキリスト教 ③=カトリックと他の宗教 ④=非カトリック同士

109	経常支出の部	
9631	(祭儀費)	86,520
5101	祭儀費	86,520
9632	(諸委員会活動費)	2,178,056
5201	生涯養成委員会	-77,278
5202	広報委員会	523,522
5203	典礼委員会	59,075
5204	青少年宣教司牧委員会	1,152,974
5205	人権を考える委員会	519,763
9633	(宣教活動費)	6,409,734
5301	中央協議会分担金	520,000
5302	広報活動費	34,650
5303	教区行事費	2,487,277
5304	研修費	3,236,570
5306	資料図書費	51,237
5308	諸会費	80,000
9635	(援助事業費)	5,492,195
5501	高松教区援助事業費	815,982
5502	教皇庁援助事業献金	2,772,915
5503	教皇庁献金	393,416
5504	中央協議会援助事業	1,509,882
9636	(人件費小教区)	2,600
5603	法定福利費	2,600
9637	(人件費教区事務局等)	31,306,764
5701	本俸・諸手当	28,446,000
5703	法定福利費	2,860,764
9638	(福利厚生費)	251,192
5802	福利費	251,192
9640	(維持管理費)	4,617,077
6001	保守管理費	1,143,536
6003	水道光熱費	1,259,469
6004	什器備品費	297,596
6005	営繕費	1,729,476
6007	損害保険料	187,000
9646	(事務管理費)	11,033,620
6101	事務印刷費	670,024
6102	消耗品費	141,155
6103	電話FAX料	229,318
6104	通信費	616,770
6105	支払手数料	106,800
6106	旅費交通費	2,938,604
6107	公租公課	1,097,400
6108	資料図書費	409,100
6109	会議費	1,069,003
6110	接待交際費	686,300
6111	報酬手数料	1,219,100
6112	諸会費	32,520
6113	リース料	197,400
6114	自動車諸費	1,600,126
6118	賃借料	20,000
9649	(養成費)	4,104,085
6202	教育費	1,734,780
6204	運営分担金	2,183,700
6205	行事費	184,130
6207	会議費	1,475
9641	【経常支出計(B)】	65,481,843

	財務支出の部	
9642	(固定資産支出)	2,145,000
7008	器具備品購入支出	145,000
7107	長期貸付金支払支出	2,000,000
9645	(その他の財務支出)	43,600,577
7106	立替金支出	10,654,463
7101	仮払金支出	22,890,960
7105	未払金支出	442,100
7111	仮受金返還支出	1,333,325
7103	預り金支出	8,279,729
9648	(内部取引勘定支出)	52,230,661
9644	(資金調整勘定)	-4,253,600
7202	期末未払金(-)	-4,253,600
9647	【財務支出計(D)】	93,722,638
9651	【支出計(F=B+D)】	159,204,481
9652	【次期繰越金(H)】	308,058,960
9653	【支出合計(J=F+H)】	467,263,441

2007年度 教区会計決算報告

教区会計 濱口秀昭

2007年度も教区の宣教活動にご協力頂き、会計決算が無事に終えたことを感謝し報告します。ただし、課題はあります。例えば、教区納付金額より人件費が高くなっていること、等です。せめて人件費が教区納付金で賄われるなど、安定した運営が行なわれるよう願っています。

コード	科目名称	教区本部合計
114	経常収入の部	
9601	(納付金収入)	22,064,020
3101	教区納付金(A)	16,424,020
3102	教区納付金(B)	5,640,000
9602	(分担金収入)	620,775
3202	その他分担金収入	620,775
9603	(特定献金収入)	6,379,732
3301	児童福祉の日献金	1,909,788
3302	聖地献金	329,034
3303	愛の献金	2,092,599
3304	広報の日献金	359,068
3305	聖ペトロ使徒座献金	420,838
3306	世界難民移住移動者献金	377,069
3307	世界宣教の日献金	511,695
3308	宣教地司祭育成日献金	379,641
9604	(一粒会献金収入)	1,537,396
3401	一粒会献金	1,537,396
9608	(特別献金収入)	55,172,775
3801	祭式献金	6,127,525
3802	特別献金	42,744,273
3803	一般特別献金	2,772,616
3804	一般献金	3,528,361
9610	(墓地・納骨堂等収入)	1,567,000
4001	非課税永代使用料収入	0
4002	課税永代使用料収入	950,000
4003	管理料収入	617,000
4004	その他納骨堂等収入	0
9613	(事業収入)	9,851,469
4301	受取利息配当金	9,507,469
4302	施設利用料収入	344,000
9612	(雑収入)	66,017
4201	課税雑収入	38,880
4202	非課税雑収入	27,137
9614	【経常収入計(A)】	97,259,184

115	財務収入の部	
9615	(固定資産収入)	3,200,000
4322	長期貸付金回収収入	3,200,000
9618	(その他の財務収入)	51,627,127
4406	立替金回収収入	11,476,296
4401	仮払金回収収入	23,253,337
4403	預り金収入	7,831,659
4411	仮受金収入	9,065,835
9619	(内部取引勘定収入)	52,216,661
4451	基金勘定収入	3,000,000
4452	教区事務勘定収入	25,798,499
4453	一粒会勘定収入	958,996
4454	墓地納骨堂勘定収入	4,800
4455	司祭会計勘定収入	22,454,366
9616	(資金調整勘定)	-604,510
4502	期末未収入金(-)	-604,510
9620	【財務収入計(C)】	106,439,278
9623	【収入計(E=A+C)】	203,698,462
9624	【前期繰越金(G)】	263,564,979
9625	【収入合計(I=E+G)】	467,263,441

生きよ殉教

日時	会場	講師	テーマ
7月5日(土)13時~	徳島カトリック教会	松永洋司神父	土佐出身の殉教者 パウロ田中、マリア田中夫妻
7月12日(土)13時~	松山カトリック教会	川村信三神父	キリシタン信徒組織と殉教 の神学
7月13日(日)13時~	四国カトリック会館 (桜町)	Sr. 片岡留美子	マリア小笠原みやー『永遠 の命の教育』
9月6日(土)13時~	徳島カトリック教会	古巣馨神父	殉教者たちを育んだ/マリ チリオ心得
9月7日(日)「教区民の 集い」の一部	香川地区「教区民の集 い」の案内のとおり	古巣馨神父	殉教者たちを育んだ/マリ チリオ心得
9月21日(日)「教区民の 集い」の一部	徳島地区「教区民の集 い」の案内どおり	Sr. 片岡留美子	マリア小笠原みやー『永遠 の命の教育』
9月28日(日)「教区民の 集い」の一部	高知地区「教区民の集 い」の案内どおり	岡本哲男神父	四国の教会の歩み
10月25日(土)13時~	松山カトリック教会	古巣馨神父	殉教者たちを育んだ/マリ チリオ心得
10月26日(日)11時~	高知江ノ口教会	古巣馨神父	殉教者たちを育んだ/マリ チリオ心得

なお、11月2日(日)殉教者をテーマとした「音楽(パイプオルガン・独唱・合唱)による黙想会」を高松市番町教会で行う予定。

生涯養成委員会主催の講座「生きよ殉教」の今後の日程は、表のとおりです。もちろん、他地区で行われる講座へも参加できますので、都合の良い日は是非ご参加ください。

お知らせコーナー



投稿記事募集

【テーマ】
テーマは、特に定めません。



【投稿要領】
字数は300字以内(写真歓迎)
「所属教会名、住所、氏名」明記のこと。
中傷・誹謗はご遠慮下さい。
原稿はできるだけメールで送って下さい。
写真もデジカメで撮影したものはメールで送って下さい。

【投稿先】
メール: tk-koho@mx1.netwave.or.jp
郵便: 〒760-0074
高松市桜町1丁目8-9
カトリック高松司教区広報担当
TEL: 087-831-6659
FAX: 087-833-1484

主な司教日程

- 7月1日(火) 司教評議会
- 13日(日) 中高生の集い
- 18日(金) 宣教司牧評議会・役員会
- 19日(土) 助祭叙階(ドミニコ会)
- 20日(日) 中村教会訪問予定
- 24日(木) 教区幼稚園連合研修会
- 25日(金) 大阪管区代表者会議
- 27日(日) 赤岡教会訪問予定
- 30日(水) 諸宗教平和懇談会
- 31日(木) 神学校委員会
- 8月3日(日) 宇和島教会訪問
- 5日(火) 広島平和行進
- 10日(日) 平和旬間ミサ「桜町」
- 14日(木)~17日(日)
WYD(山中湖)
- 24日(日) 阿南教会訪問予定
- 31日(日) 鳴門教会訪問予定
- 9月2日(火) 司祭評議会
- 7日(日) 香川県教区民のつどい
- 14日(日) 秋田教区司祭大会
- 19日(金) 宣教司牧評議会・役員会
- 20日(土) 神戸地区講演会
- 21日(日) 徳島県教区民のつどい
- 24日(水) 司祭集会
- 28日(日) 高知県教区民のつどい

お詫びと訂正

すでに小教区にはお詫びの文書を送りましたが、前号(百二十三号)巻頭の司教様執筆記事の表題を「一八八日本殉教者」とすべきところ「一一八日本殉教者」と間違っており印刷してしまいました。
ここに改めてお詫びと訂正をいたします。三重のチェックをしていてのミスは人間の盲点のなせる業ではないかと反省しております。今後はこのような重大なミスの無いようにいたしますので、悪しからずご了承いただきたいと思います。
教区広報委員長 田井貞良